

4 看護学部

1) 平成21年度時間割

① 1年前期

	月	月		火	水	木	金
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)				
1	9:00 ～ 10:30				情報リテラシー I	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10			看護観察技術論	情報リテラシー I	日本語表現法 英語 I A 英語 I B 英語 I C	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	形態機能学 I		看護観察技術論	英語 I A 英語 I B 英語 I C	日本語表現法 英語 I A 英語 I B 英語 I C	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	形態機能学 I			英語 I A 英語 I B 英語 I C	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 ～ 18:00	看護学原論	地域保健学 概論	人間発達援助論		スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

※集中講義：看護初期実習 6月8日～6月12日

② 1年後期

	月	月		火		水	木	金
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)			
1	9:00 ～ 10:30	病理病態学		薬理学	看護過程論	現代社会と家族		情報リテラシー II 手話
2	10:40 ～ 12:10	病理病態学		看護理論	看護過程論	心のしくみ	芸術と文化	情報リテラシー II 手話
3	13:10 ～ 14:40	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C	プレゼンテーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
4	14:50 ～ 16:20	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C	プレゼンテーション 英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
5	16:30 ～ 18:00	感染予防論				宗教と思想	統計の世界	現代社会と経済

※集中講義：基礎看護学臨地実習 I 10月19日～10月23日

③ 2年前期

	月		火	水		木		金	
	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30	人間工学	ジェンダーを考える 中国語 ロシア語 実践英語 A	生命科学		精神看護学 概論	環境保健	老年看護学 概論	
2	10:40 ∩ 12:10	疾病治療学 B		実践英語 A ロシア語 中国語	医療情報	疾病治療学 A		臨床栄養学	
3	13:10 ∩ 14:40	公衆衛生学	家族社会学	実践英語 B ロシア語 中国語	生命倫理	疾病治療学概論		症状マネジメント論	
4	14:50 ∩ 16:20	成人看護学 概論	成人看護 援助論	現代社会と国際関係 健康とスポーツ		社会福祉学		症状マネジメント論	
5	16:30 ∩ 18:00		成人看護 援助論	グループ・ダイナミックス ボランティア活動を考える					

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ 5月25日～6月5日

④ 2年後期

	月		火	水		木		金		
	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	
1	9:00 ∩ 10:30		精神看護 援助論	教育を考える	臨床心理学		臨床薬理学		援助の人間 関係論	在宅看護 援助論
2	10:40 ∩ 12:10	母性看護学 概論	精神看護 援助論	環境を考える	韓国語	小児看護学 概論	看護倫理学	援助の人間 関係論	在宅看護 援助論	
3	13:10 ∩ 14:40	感染管理論			疾病治療学 C		がん看護学	老年看護 援助論		
4	14:50 ∩ 16:20	在宅看護学 概論					がん看護学	老年看護 援助論		
5	16:30 ∩ 18:00		チーム医療論							

※集中講義：成人看護臨地実習Ⅰ 11月2日～11月20日

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30			小児看護 援助論		在宅看護 技術論		成人看護 技術論 保健統計		リハビリテー ション看護学	
2	10:40 ∩ 12:10			小児看護 援助論		在宅看護 技術論		成人看護 技術論 保健統計		リハビリテー ション看護学	
3	13:10 ∩ 14:40			母性看護 援助論		保健医療福祉制度論				地域看護学 概論	
4	14:50 ∩ 16:20	認知症ケア		母性看護 援助論		保健医療福祉制度論				精神看護 技術論	
5	16:30 ∩ 18:00	認知症ケア								精神看護 技術論	

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5月11日～5月15日
成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6月22日～7月31日

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30	研究方法論		小児看護 技術論		看護教育学		地域看護 援助論		ペリネイタル ケア	
2	10:40 ∩ 12:10	研究方法論		小児看護 技術論		透析ケア		地域看護 援助論		救急看護学	
3	13:10 ∩ 14:40	寒冷地医療		健康教育 指導法		バリアティブ ケア		重症集中ケア		母性看護 技術論	
4	14:50 ∩ 16:20	地域看護 援助論		健康教育 指導法				老年看護 技術論		母性看護 技術論	
5	16:30 ∩ 18:00	地域看護 援助論		学部連携演習				老年看護 技術論		放射線医療 管理論	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11月24日～12月8日、1月18日～1月29日
母性看護学臨地実習の一部 12月21日～12月25日、2月1日～2月5日

⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30	国際保健学		看護情報学		看護管理学		ヘルスプロ モーション 活動論			
2	10:40 ∩ 12:10	現代専門職論		医療経営学		看護管理学		ヘルスプロ モーション 活動論			
3	13:10 ∩ 14:40	災害看護学		医療安全管理論							卒業研究
4	14:50 ∩ 16:20	地域看護 技術論		国際看護学							卒業研究
5	16:30 ∩ 18:00	地域看護 技術論		学部連携演習							

※集中講義：地域看護学臨地実習 6月15日～7月24日

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)	前半 (第1～第7.5週)	後半 (第7.5～第15週)
1	9:00 ∩ 10:30										
2	10:40 ∩ 12:10										
3	13:10 ∩ 14:40										卒業研究
4	14:50 ∩ 16:20										卒業研究
5	16:30 ∩ 18:00										

※集中講義：ヘルスケアマネジメント実習 9月28日～10月16日

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21年度入学生用

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数	
		必修	選択			
共通教育科目	導入科目	2		1年前期	2単位	
	文化に対する理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位以上
		宗教と思想		2	1年後期	
		芸術と文化		2	1年後期	
		環境を考える		2	2年後期	
	人間に対する理解	心のしくみ		2	1年後期	4単位以上
		体のしくみ		2	1年前期	
		ジェンダーを考える		2	2年前期	
	社会に対する理解	人間関係を考える		2	1年前期	6単位以上
		健康とスポーツ		2	2年前期	
統計の世界		2		1年後期		
コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1	1年前期	8単位以上	
		英語ⅠB	1	1年前期		
		英語ⅠC	1	1年前期		
		英語ⅡA	1	1年後期		
		英語ⅡB	1	1年後期		
	コミュニケーション・情報技術	実践英語A		1	2前・2後	4単位以上
		実践英語B		1	2年前期	
		韓国語		1	2年後期	
		中国語		1	2年前期	
		ロシア語		1	2年前期	
合計					28単位以上	

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数	
		必修	選択			
専門教育科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2	1年前期	5単位以上	
		形態機能学Ⅱ	2	1年後期		
		生命科学		1		2年前期
		生命倫理		1		2年前期
		環境保健		1		2年前期
		人間工学		1		2年前期
		健康と健康障害と予防	薬理学	1		1
	臨床薬理学		1	1	2年後期	
	臨床栄養学		1	1	2年前期	
	保健と医療と福祉	疾病治療学概論	2		1年後期	7単位以上
疾病治療学A		1		2年前期		
疾病治療学B		1		2年前期		
疾病治療学C		1		2年後期		
感染予防論		1		1年後期		
公衆衛生学		1		2年前期	7単位以上	
社会福祉学		1		2年前期		
家族社会学		1	1	2年前期		
チーム医療論			1	2年後期		
感染管理論			1	2年後期		
臨床心理学		1	2年後期			
地域保健学概論	1		1年前期			
保健医療福祉行政論	1		3年前期			
保健統計	1		3年前期			
医療情報	1		2年前期			
合計					22単位以上	

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	修得単位数					
		必修	選択							
看護の基礎となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学概論	1	1年前期	7単位					
		看護理論	1	1年後期						
		援助的人間関係論	1	2年後期						
		人間発達援助論	1	1年前期						
		看護初期実習	1	1年前期						
		看護倫理学	1	2年後期						
	健康教育指導法	1	3年後期							
	看護の基本的展開	看護過程論	1	1	1年後期	10単位				
		看護実践技術論	1	1	1年前期					
		在宅マネジメント論	2	2	2年前期					
基礎看護技術論		2	2	1年後期						
基礎看護学臨床実習Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
基礎看護学臨床実習Ⅱ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
研究方法論	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
小児	小児看護学概論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	小児看護援助論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	小児看護技術論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
小児看護学臨床実習	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
母性	母性看護学概論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	母性看護援助論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	母性看護技術論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
母性看護学臨床実習	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
成人	成人看護学概論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	成人看護援助論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	成人看護技術論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
成人看護学臨床実習Ⅰ	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
成人看護学臨床実習Ⅱ	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
老年	老年看護学概論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	老年看護援助論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	老年看護技術論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
老年看護学臨床実習Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老年看護学臨床実習Ⅱ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
精神	精神看護学概論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護援助論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	精神看護技術論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
精神看護学臨床実習	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
在宅	在宅看護学概論	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	在宅看護援助論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	在宅看護技術論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
在宅看護学臨床実習	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
健康課題への対応	リハビリテーション看護学	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	がん看護学	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	認知症ケア	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	透析ケア			1	1	1	1	1	1	1
	重症集中ケア			1	1	1	1	1	1	1
	急性看護学			1	1	1	1	1	1	1
	放射線医療管理論			1	1	1	1	1	1	1
ペリネイタルケア			1	1	1	1	1	1	1	
パリアティブケア			1	1	1	1	1	1	1	
療養地医療			1	1	1	1	1	1	1	
コミュニティアクティビティに関するもの	地域看護学概論	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	地域看護援助論	2	2	4	4	4	4	4	4	4
	地域看護技術論	1	1	4	4	4	4	4	4	4
	ヘルスコミュニケーション活動論	1	1	4	4	4	4	4	4	4
	地域看護学臨床実習Ⅰ	2	2	4	4	4	4	4	4	4
	地域看護学臨床実習Ⅱ	2	2	4	4	4	4	4	4	4
発展・統合に関するもの	看護管理学	1	1	4	4	4	4	4	4	4
	看護教育学	1	1	3	3	3	3	3	3	3
	卒業研究	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	ヘルスケアマネジメント実習	3	3	4	4	4	4	4	4	4
	看護情報学			1	1	1	1	1	1	1
	災害看護学			1	1	1	1	1	1	1
	国際看護学			1	1	1	1	1	1	1
国際保健学			1	1	1	1	1	1	1	
医療経営学			1	1	1	1	1	1	1	
医療安全管理論			1	1	1	1	1	1	1	
現代専門職論			1	1	1	1	1	1	1	
学部連携	学部連携実習	2	2	3	3	3	3	3	3	3
合計										78単位以上

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

平成18～20年度（編入学生は20～21年度）入学生用

区分	授業科目の名称	単位数		配当 年次	修得 単位数	
		必修	選択			
共通 教育 科目	導入科目	2		1年前期	2単位	
	文化に対する 理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位 以上
		宗教と思想		2	1年前期	
		芸術と文化		2	1年前期	
		環境を考える		2	2年前期	
		教育を考える		2	2年前期	
	人間に対する 理解	心のしくみ		2	1年前期	4単位 以上
		体のしくみ		2	1年前期	
		ジェンダーを考える		2	2年前期	
	社会に対する 理解	人間関係を考える		2	1年前期	6単位 以上
健康とスポーツ			2	2年前期		
現代社会と家族			2	1年前期		
現代社会と国際関係			2	2年前期		
コ ミ ュ ニ ケー ション 科 目	外国語	英語ⅠA	1	1年前期	8単位 以上	
		英語ⅠB	1	1年前期		
		英語ⅠC	1	1年前期		
		英語ⅡA	1	1年前期		
		英語ⅡB	1	1年前期		
	コミュニケーション・ 情報技術	英語ⅡC	1	1年前期	4単位 以上	
		実践英語A		1		2年-2後
		実践英語B		1		2年前期
		韓国語		1		2年前期
		中国語		1		2年前期
ロシア語		1	2年前期			
コミュニケーション・ 情報技術	日本語表現法		1	1年前期	4単位 以上	
	プレゼンテーション		1	1年前期		
	基礎カウンセリング		1	1年前期		
	対人コミュニケーション		1	1年前期		
	グループダイナミックス		1	2年前期		
コミュニケーション・ 情報技術	手話		1	1年前期	4単位 以上	
	情報リテラシーⅠ	1		1年前期		
	情報リテラシーⅡ	1		1年前期		
合計					28単位以上	

区分	授業科目の名称	単位数		配当 年次	修得 単位数		
		必修	選択				
専 門 教 育 科 目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2	1年前期	5単位 以上		
		形態機能学Ⅱ	2	1年前期			
		生命科学	1	2年前期			
		生命倫理	1	2年前期			
		環境保健	1	2年前期			
		人間工学	1	2年前期			
	健康と 健康増進と予防	薬理学	1		1年後期	10単位	
		臨床薬理学	1		2年後期		
		臨床栄養学	1		2年前期		
		病理病態学	2		1年後期		
疾病治療学A		1		2年前期			
保健と 医療と福祉	疾病治療学B	1		2年前期	6単位 以上		
	疾病治療学C	1		2年後期			
	感染予防論	1		1年後期			
	公衆衛生学	1		2年前期			
	社会福祉学	1		2年前期			
専 門 基 礎 科 目	家族社会学	1		2年前期	21単位以上		
	チーム医療論	1		2年後期			
	感染管理論	1		2年後期			
	臨床心理学	1		2年後期			
	地域保健学概論	1		1年前期			
	保健医療福祉制度論	1		3年前期			
	保健統計	1		3年前期			
	医療情報	1		2年前期			
	合計						21単位以上

区分	授業科目の名称	単位数		配当 年次	修得 単位数		
		必修	選択				
専 門 科 目	看護の 基礎と なるもの	看護学概論	1		1年前期	7単位	
			看護理論	1			1年後期
			理論的人間関係論	1			2年後期
			人間発達援助論	1			1年後期
			看護初期実習	1			1年前期
	看護の 基本的展開	看護倫理学	1		2年後期	10単位	
		健康教育指導法	1		3年後期		
		看護過程論	1		1年後期		
		看護実践技術論	1		1年前期		
		在宅マネジメント論	2		2年前期		
小児	基礎看護技術論	1		1年後期	5単位		
	基礎看護学臨床実習Ⅰ	2		2年前期			
	基礎看護学臨床実習Ⅱ	2		2年前期			
	研究学方法論	1		3年後期			
	小児看護学概論	1		2年後期			
母性	小児看護学概論	1		2年後期	5単位		
	小児看護学援助論	1		3年前期			
	小児看護学技術論	1		3年後期			
	小児看護学臨床実習	2		3年後期			
	小児看護学臨床実習Ⅱ	2		3年後期			
成人	母性看護学概論	1		2年後期	8単位		
	母性看護学援助論	1		3年前期			
	母性看護学技術論	1		3年後期			
	母性看護学臨床実習	2		3年後期			
	母性看護学臨床実習Ⅱ	2		3年後期			
老年	成人看護学概論	1		2年前期	6単位		
	成人看護学援助論	1		2年後期			
	成人看護学技術論	1		3年前期			
	成人看護学臨床実習Ⅰ	3		2年後期			
	成人看護学臨床実習Ⅱ	2		3年前期			
精神	老年看護学概論	1		2年前期	5単位		
	老年看護学援助論	1		2年後期			
	老年看護学技術論	1		3年前期			
	老年看護学臨床実習Ⅰ	1		3年前期			
	老年看護学臨床実習Ⅱ	2		3年後期			
在宅	精神看護学概論	1		2年前期	5単位		
	精神看護学援助論	1		2年後期			
	精神看護学技術論	1		3年前期			
	精神看護学臨床実習	2		3年前期			
	在宅看護学概論	1		2年後期			
健康問題への 対応	在宅看護学援助論	1		2年後期	5単位 以上		
	在宅看護学技術論	1		3年前期			
	在宅看護学臨床実習	2		3年前期			
	在宅看護学臨床実習Ⅱ	2		3年後期			
	在宅看護学臨床実習Ⅲ	2		3年後期			
コミュニ ティ に 関 する もの	リハビリテーション看護学	1		3年前期	8単位		
	がん看護学	1		2年後期			
	認知症ケア	1		3年前期			
	透析ケア	1		3年後期			
	重症集中ケア	1		3年後期			
発展・統 合に 関 する もの	緊急看護学	1		3年後期	11単位 以上		
	放射線医療管理論	1		3年後期			
	ペリネイタルケア	1		3年後期			
	パリアティブケア	1		3年後期			
	寒冷地医療	1		3年後期			
学 部 連 携	地域看護学概論	1		3年前期	8単位		
	地域看護学援助論	2		3年後期			
	地域看護学技術論	2		4年前期			
	ヘルスプロモーション活動論	1		4年前期			
	地域看護学臨床実習	3		4年前期			
専 門 科 目	看護管理 学	看護管理学	1		4年前期	11単位 以上	
		看護教育学	1		3年後期		
		卒業研究	4		4年		
		ヘルスケアマネジメント実習	3		4年後期		
		看護情報学	1		4年前期		
	学 部 連 携	災害看護学	1		4年前期	2単位	
		国際看護学	1		4年前期		
		国際保健学	1		4年前期		
		医療経営学	1		4年前期		
		医療安全管理論	1		4年前期		
学 部 連 携	現代専門論	1		4年前期	2単位		
	学部連携実習	2		3後～4前			
	合計						77単位以上

*保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、2009年からカリキュラムを一部変更する予定です。

② 卒業要件

※平成21年度入学生用

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合計	106	22	128

※平成18～20年度（編入学生は20～21年度）入学生用

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	92	6	98
(専門基礎科目)	(19)	(2)	(21)
(専門科目)	(73)	(4)	(77)
合計	104	22	126

3) 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）

★印：非常勤講師

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
形態機能学 I ★高野 廣子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】形態機能学では、生命現象を論理的に思考できるように、身体の構造と機能について学習する。形態機能学Iでは、①人体を構成する細胞・組織など基本となる構造とその機能を学ぶ。②内臓の調節系及び統御系にあたる自律神経系と内分泌系の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。③生命の維持に必要な機能を分担する循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、血液・造血系、免疫系の構造と機能を、病態に関連づけて学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①細胞と組織の種類、及びそれらの構造と機能を説明できる。</p> <p>②自律神経系と内分泌系の構造と機能を説明できる。交感・副交感神経とホルモンの機能亢進症と機能低下症の症状について説明できる。</p> <p>③循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、血液・造血系の構造と機能を説明できる。さらにそれぞれの有名な疾患について説明できる。</p> <p>④異常心電図について読み方を説明できる。腎臓が尿をつくる過程を説明できる。</p> <p>⑤免疫系の構造と機能を説明できる。炎症の治癒過程について説明できる。</p>

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
地域保健学概論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美	講義 15時間	【科目のねらい】保健・医療・福祉の考え方を基盤に、住民主体の保健・医療・福祉活動の基本理念や考え方について学習する。また、地域保健・産業保健の基本的な知識と保健指導の基礎について理解する。 【到達目標】 ①人々が生活を営む上での健康の意義を述べることができる。 ②地域で生活している人々の健康と生活の質の向上を意図した保健活動の概要が理解できる。 ③さまざまな健康課題の解決に向けて、保健・医療・福祉対策が講じられていることを知る。
看護学原論 ◎河野 總子 定廣 和香子	講義 15時間	【科目のねらい】看護学の構築（要素）を基盤とし、生活する人々の体験として健康と健康障害、それを巡る人々の取り組み、そこに关わる看護実践の方法や場を通し、「看護とは何か」について考え、さらに発展させる基礎とする。 【到達目標】 ①生活体としての人間存在について、理解を深め、人々の体験として健康と健康障害について理解する。 ②看護の本質について学び、看護観の基礎を形成する。
看護初期実習 ◎守村 洋 大野 夏代 清水 光子 須田 恭子 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 保田 玲子 渡邊 由加利	実習 45時間	【科目のねらい】看護初期実習は、看護職が活動する保健・医療・福祉の場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機づけとする。看護の実際を見学することにより、他職種の専門性と看護職との関わりを理解する。 【到達目標】 ①看護の対象は、さまざまな健康レベルにある人々であることを知る。 ②人々の健康生活を支える看護実践の場を知る。 ③保健・医療・福祉施設での看護場面を通して、看護の役割を考える。 ④対象者の健康上のニーズに対して保健・医療・福祉に関わる他職種との連携を知る。
看護観察技術論 ◎大野 夏代 定廣 和香子 佐藤 公美子 星 美和子	演習 30時間	【科目のねらい】アセスメントを基本的人間関係論と位置づけ、バイタルサイン及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行う。特に看護過程の一部として状態把握の基礎技術の重要性について演習を通して学ぶ。 【到達目標】 ①看護における観察の目的を説明できる。 ②看護に必要な情報を収集・分析できる。 ・主観的・客観的な情報を区別できる。 ・バイタルサインの測定が正確にできる。 ・フィジカルアセスメントの方法を学び、実施できる。 ③収集した情報を、記録・報告できる。 ④援助者として適切な姿勢や態度がとれる。
人間発達援助論 ◎宮崎 みち子 内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代	演習 30時間	【科目のねらい】人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。 【到達目標】 ①人間発達の共通性・特異性、及び人間発達に影響を及ぼす因子を理解する。 ②発達理論の特徴を理解する。 ③人間の発達段階各期における看護援助の視点を理解する。

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
形態機能学Ⅱ ★高野 廣子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】形態機能学Ⅱでは、①初期発生と性の分化を学ぶ。②生殖器と感覚器の構造と機能を、病態に関連づけて学ぶ。③中枢神経系の構造と機能を、病態に関連づけ学ぶ。④運動器（骨と筋肉・血管・神経）を局所解剖的に学び、骨学実習を通して体の動きと関連づける。⑤標本館の標本あるいは人体の模型に接したとき、人体の構造について学んできた知識を想起し、納得できる。⑥食物の消化・吸収・代謝についての基本的知識を習得し、栄養学を論理的に理解する力を養う。⑦体液の恒常性を維持する仕組みを、病態に関連づけて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生殖器系と感覚器系についてその構造と機能を説明できる。また、関連する検査法や有名な疾患についても説明できる。 ②中枢神経系の構造と機能を説明できる。また、これに関連した有名な疾患についても説明できる。 ③主要な骨・筋肉・血管・神経を、正しい解剖学名で言える。 ④主要な筋肉の起始・停止・作用、神経支配を言える。 ⑤食物の消化・吸収・代謝過程を説明できる。 ⑥ビタミンとミネラルの欠乏症を説明できる。体液の恒常性が維持される機序を説明できる。
薬理学 ★富樫 廣子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】医薬品の生体に及ぼす作用を理解する上で必要な基礎的知識を習得し、医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①薬物の作用に関する基礎的事項を理解し、説明できる。 ②薬物の作用を病態との関連性から説明できる。 ③薬物相互作用や副作用を説明できる。
病理病態学 ★小林 正伸	演習 60時間	<p>【科目のねらい】病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生体防御機構についての概要を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病気の成り立つメカニズムを理解する。 ②主な疾患の症状、診断、治療法の概要を理解する。
感染予防論 ★滝沢 慶彦	講義 15時間	<p>【科目のねらい】微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気・病態とどのように関わっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生体の感染防御機構について理解する。 ②個々の病原微生物について、種類、感染経路、感染症の症状、診断、治療、予防について覚える。 ③院内感染予防について理解する。
看護理論 ◎中村 恵子 定廣 和香子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】看護の実践において用いられている看護理論の意義と理論構成について、歴史的発展を踏まえて理解する。また、それぞれの理論や看護モデルを通して、看護の主要な要素とその概念について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護理論の基礎となる概念（人間、看護、健康、環境）について理解できる。 ②看護理論発展の歴史について理解できる。 ③主な看護理論家が提唱する理論の基礎について学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
看護過程論 ◎大野 夏代 佐藤 公美子 渡邊 由加利	演習 30時間	【科目のねらい】対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の“問題解決思考と行動”及びそれを支える看護理論を用いながら看護過程の実際を学習する。 【到達目標】 ヘンダーソンの看護の概念に基づき、看護過程を展開することができる。
基礎看護技術論 ◎佐藤 公美子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 藤井 瑞恵 星 美和子 三上 智子	演習 60時間	【科目のねらい】対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活の行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療、処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を学ぶ。 【到達目標】 ①基礎看護技術の原則と根拠を明確にし、技術を修得する。 ②健康な人を対象にした一部の看護技術項目を、一人であるいは指導を受けながら安全に安楽に実践できる。 ③自主的に演習課題に取り組み、技術の修得に向けた学修態度がとれる。
基礎看護学臨地実習Ⅰ ◎佐藤 公美子 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 菊地 ひろみ 星 美和子 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 蘭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 45時間	【科目のねらい】入院患者の生活環境を看護の視点で観察し、看護の働きかけを体験的に学ぶ。具体的には ①入院患者の生活環境を知り、それらの思いや健康状態、健康ニーズを学ぶ。 ②入院患者に行われている看護について体験的に学ぶ。 ③入院患者との関わりを通して、ヒューマンケアの基本を学ぶ。 【到達目標】 ①入院患者の生活環境を知る。 ②入院患者が、自分の健康状態や療養生活、自分が受けている看護をどのように認識しているかを知る。 ③健康障害のある人に対する看護の実際を知る。 ④保健医療福祉チームを構成している各部門の概要・役割・機能を知る。 ⑤看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 ⑥実習グループにおけるリーダー及びメンバーシップの役割関係を建設的・協力的に務めることができる。 ⑦実習を通して、ヒューマンケアについて学んだことを説明し、今後の学習課題を明確にできる。
生命科学 ★山田 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】分子生物学からゲノムサイエンスまでの発展の歴史を概観しながら、生命観の変遷を学ぶ。生命の基礎である細胞、体を構成する主な成分について学び、さらに、生命科学の基本である遺伝情報について、遺伝情報の流れや遺伝子発現制御などに関する理解を深める。また、看護においても重要な対象である癌、老化と寿命、生活習慣病と遺伝子の関係について学び、生命と科学に対する理解を深める。 【到達目標】 ①生命の最小単位である細胞と、生命体を構成している物質を理解し、細胞がどのようにエネルギーを産出し、外部エネルギーを取り入れるのかを理解する。 ②生命の設計図・遺伝子の複製と発現について理解する。 ③分子からみた生命現象を理解し、さらに病気と遺伝子の関わりを理解する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会・経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
生命倫理 ★村上 友一	講義 15時間	<p>【科目のねらい】医療技術の発展とともに従来の生命観や価値観が対立するような事例が生じてきた。伝統的な価値観に自己決定の原則を加えただけで対応していくことには限界がある。本講義では、生命倫理の問題群の中から、終末期医療、脳死移植、生殖医療に論点を絞る。これらの問題について厚みのある理解を持つことが目指される。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「知識」を持つことではなく、「問題意識」を持つこと。 ②紋切り型の回答を止めて、きちんと自分自身の問題に向き合うこと。 ③自分の考えを論理的に表現できること。
環境保健 ◎加藤 登紀子 ★齋藤 健	講義 15時間	<p>【科目のねらい】健康を考える上で、環境は重要なウエイトを占める。とりわけ、現代社会では人間活動の影響を強く受けた環境によって、かつて経験したことのない新たな健康問題が引き起こされている。環境破壊と健康障害等の事例から、健康にとって環境の持つ意味及びそれらが人間の活動にどれだけ影響を及ぼしているかを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人々の健康や生活と環境との密接な関わりを説明できる。 ②どのような人間活動が環境を破壊し、健康問題を引き起こしているか説明できる。 ③持続可能な循環型社会をつくるための環境行動について述べるができる。
人間工学 ◎樋之津 淳子 ★佐藤 秀一	講義 15時間	<p>【科目のねらい】保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人間工学の基礎的な概念と看護学との関係が説明できる。 ②人の動作に必要な機能の特性がわかる。 ③人の生体計測及び動作分析方法の基礎を学ぶ。 ④看護ケア・福祉機器、病院環境の諸課題を人間工学の視点から説明できる。
臨床栄養学 ★高野 良子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的な栄養マネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康時の「栄養状態」について評価・判定できる。 ②「栄養状態の特徴」に応じた栄養マネジメントについて理解できる。 ③患者に「栄養マネジメント」の基本を説明できる。
疾病治療学概論 富樫 武弘	演習 30時間	<p>【科目のねらい】人の健康を損ねるものには極めて多くの疾病がある。しかしながら、多くの疾病に共通した発生の要因があり、いくつかの疾病で似たような特質を有している。ここでは、諸臓器の構造と機能をまず理解し、諸臓器に発生する主な疾病の症状並びに疾病発生の仕組み、検査の方法、治療法に関する基本的な知識を学ぶ。また、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生命を維持し活動するためには全身諸臓器が単独で、また関連し合って正常な機能を発揮する必要がある。臓器の正常な機能を理解する。 ②臓器の機能が破綻して疾病を発症する機構を理解しさらに疾病の診断方法、検査法を理解する。 ③疾病の治療法を理解する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
疾病治療学A ★小倉 滋明	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立に関わる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>
疾病治療学B ★向井 正也	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立に関わる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、消化器疾患、血液疾患、骨・筋肉疾患、腎・泌尿器疾患について学習する。</p> <p>【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。</p>
公衆衛生学 ★村松 宰	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 人間を取り巻く環境は、人間の体に影響を与え、健康の保持増進、健康障害の発生に大きく関わっています。将来の組織的な保健活動に役に立つよう人々の疾病を予防すること、より良い健康水準の獲得を目指すことを目標として、医学的、社会的、疫学的、行政的視点から、健康を維持し、増進するための基礎的知識を習得します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 公衆衛生の概念が説明できる。 ② 衛生統計指標や人口統計指標の定義について説明できる。 ③ 疫学の初歩を理解する。 ④ 国の衛生行政と地方の保健所業務及び市町村の衛生行政業務について説明できる。 ⑤ 公衆衛生活動として感染症の予防対策や、生活習慣病の概念からライフスタイルの面から疾患の予防対策をあげることができる。 ⑥ 労働者の健康を維持する視点から職業性疾患について分類し説明できる。 ⑦ 人間の健康の維持増進、疾病の予防を実践するために関わる環境要因について説明できる。 ⑧ WHOなどの国際機関の機構及び機能と多国間協力の現状について概説できる。
社会福祉学 ★大内 高雄	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 現代における社会福祉の概念とその歴史の変遷について学習し、併せて福祉サービスを必要とする人々の生活困難と社会福祉の関係を理解する。また、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、社会的な生活困難を抱える人々を総合的に支援する援助技術や社会福祉の果たす役割、今後の方向性についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今日、社会福祉を必要とする背景と具体的諸問題を理解する。 ② 今後の社会福祉を展望するにあたり、日本や諸外国の社会福祉の歴史や理念を理解する。 ③ 社会的な生活困難を抱える人々の地域自立生活支援を援助する技術を理解すると同時に、その実践上の視点や方法を習得する。
家族社会学 原 俊彦	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 人間生活の基礎的な単位である家族が、現代社会で大きく変化しつつある現状を見据えながら、社会における家族の役割及び生活の場として家族が個人に果たす役割や機能について理解する。</p> <p>【到達目標】 家族と社会、家族と個人の関係についての関心や理解力を得ること。家族社会学の基礎的な専門用語を習得すること。</p>

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
医療情報 ★小笠原 克彦	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 医療における情報機器の利用と注意点、医療情報を通じた医療者間の連携、患者情報の管理を理解するために、倫理や経営など社会科学的側面、コンピュータやシステムなど理工学的側面、電子カルテ・各種システムや臨床疫学・EBMなど、医療的側面など多視点から見た医療情報について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療における個人情報の安全な取り扱いと管理方法を列挙できる。 ②医療における情報・システムの役割とその具体的な運用方法を説明できる。 ③医療における情報の発展的な活用方法を提示し、関連分野との関連性を説明できる。
症状マネジメント論 ◎須田 恭子 樋之津 淳子 大野 夏代 菅原 美樹 藤井 瑞恵 村松 真澄	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 臨床で遭遇する代表的な症状を体験している対象への、必要な情報収集とアセスメントについて学修します。また、人体機能の変化や症状の機序、他覚的な臨床所見の見方、臨床検査データの読み方、治療経過の評価を基に、症状緩和に向けた看護介入の方法を学び、看護の臨床の場で役立つ症状マネジメントを修得します。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①何らかの症状を持っている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 ②症状緩和に向けた看護介入の方法がわかり、根拠を明確にできる。
基礎看護学臨地実習Ⅱ ◎樋之津 淳子 定廣 和香子 大野 夏代 佐藤 公美子 星 美和子 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 蘭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 90時間	<p>【科目のねらい】 医療機関で療養生活を送る患者様を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためのコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。</p> <p>以上により、看護の対象となる患者様やご家族の特性及び看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①受け持ち患者との対人関係を築き、患者の特性や看護の必要性を説明できる。 ②対象に応じた看護過程の一連のプロセスを展開し、記述できる。 ③基本的な日常生活援助を安全に実施できる。 ④看護学生として、倫理基準に基づき、安全で責任ある行動を示すことができる。 ⑤受け持ち患者の看護過程の展開を通して自己の学修課題を明確にすることができる。
成人看護学概論 ◎内田 雅子 中村 恵子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 成人期にある対象の身体・精神・社会的な特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに、生活習慣と健康障害の関連など成人保健活動の基本について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成人期にある対象の発達課題を基礎として、身体・精神・社会的特徴を述べるができる。 ②成人期の保健について理解し、成人期に経験しやすい健康上の諸問題について列挙できる。 ③健康障害の各経過の特徴を理解し、生活へ及ぼす影響について考えることができる。 ④また、成人期の健康障害に伴う治療・看護について述べるができる。 ⑤健康障害を持つ対象を支援するための看護に必要な理論について学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
成人看護学援助論 ◎須田 恭子 中村 恵子 内田 雅子 菅原 美樹	演習 30時間	【科目のねらい】健康障害の病態と治療等を通して、成人期における生活習慣病などの健康障害を有する対象と、その家族に対する基本的看護援助方法について学修する。また、生活習慣病予防のための健康増進対策など、成人保健活動の援助についても学ぶ。 【到達目標】 ①健康障害の病態と治療を理解し、成人期にある対象の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な看護援助方法がわかる。 ②健康障害を有する対象と、その家族の心理・社会的側面に対する援助方法を理解し、看護過程の展開により必要な看護援助がわかる。
老年看護学概論 坂倉 恵美子	講義 15時間	【科目のねらい】社会の構成員としての高齢者の存在の意義を考え、高齢期の特徴とその生活及び加齢による健康的側面及び社会・環境的側面から理解を深める。また、老年保健及び老年看護活動の基本的考え方、方法について学習する。 【到達目標】 ①看護学における老年看護学の位置づけを説明できる。 ②老年期にある人々の加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響を説明できる。 ③高齢者の保健医療・福祉の変遷と将来予測を説明できる。 ④老年看護の機能と役割について説明できる。 ⑤現在自分が持っている老年観を言語化し、洞察する必要性について説明できる。
精神看護学概論 山本 勝則	講義 15時間	【科目のねらい】精神看護学の枠組み・考え方・隣接する学問との関連を学ぶ。次に、人間の心と行動に関する諸種の理論及び発達段階と生活の場について、メンタルヘルスの観点から学ぶ。そして、それを精神看護の実践に生かすために、信頼関係とコミュニケーションの基礎について、導入部分を学ぶ。 【到達目標】 ①精神看護の枠組みがわかる。 ②心のケア／精神看護に必要とされるさまざまな理論モデルがわかる。 ③理論モデルを看護実践に用いるためのものとして理解できる。
臨床薬理学 ★唯野 貢司	演習 30時間	【科目のねらい】薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに学ぶ。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を学ぶ。 【到達目標】 ①臨床で使用されている基本薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係を正しく理解できる。 ②臨床で使用されている基本薬物について、薬物が人体に作用する仕組みを正しく理解できる。 ③薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。
疾病治療学C ★三澤 一仁	演習 30時間	【科目のねらい】疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立に関わる基本的病態の概念を述べ、各臓器・器官がどのような病態となって疾病へと移行して要治療となるのかを学習する。ここでは、外科疾患、感覚器系疾患、歯科・口腔系疾患、脳・神経系疾患について学習する。 【到達目標】 各臓器・器官の機能のメカニズムと心身の相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を習得する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
チーム医療論 ◎河野 総子 中村 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】 医療従事者として、チーム医療について必要な知識を習得する。社会環境の変化に伴い、医療が細分化されるとともに高度な内容となっており、医師が中心であった医療から対象を中心とした専門家集団による医療が求められるようになった。このことを踏まえ、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。 【到達目標】 ①チーム医療の概念を学び、構成する各職種の役割を把握する。 ②チーム医療における患者・家族と医療従事者の関係について理解する。 ③医療従事者間の連携や協働について学ぶ。 ④チーム医療実践上の倫理的問題について理解する。
感染管理論 ◎スーディ神崎 和代 ★石角 鈴華	講義 15時間	【科目のねらい】 人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理対策を学ぶ。また、医療機関などの施設における感染管理の重要性についての理解を深める。 【到達目標】 ①感染症の成り立ちを理解し、院内感染と地域感染の相違を述べることができる。 ②感染予防の手法、ハンドラップ等の薬剤・備品に関する知識への理解を述べるができる。 ③感染予防管理と危機管理・医療の質の改善コンセプトの関係を述べるができる。 ④CDC等の感染関連組織の機能を理解する。
臨床心理学 ★菊池 浩光	講義 15時間	【科目のねらい】 「心身一如」という言葉があるように、人間の心と身体の結びつきは想像以上に強い。心と身体の相互影響についての知見を深めておくことは、ケアとケアを推進していく上でも有用であるはずである。臨床心理学的アプローチの実際の経験事例なども紹介しながら、医学とは異なる視点や関わり方について学んでいく。それとともに臨床心理士の業務内容の理解を図り、チーム医療に役立てていけるようにしたい。さらに、自分の内面を掘り下げることの重要性にも言及する。 【到達目標】 ①臨床心理学的視点や技術（心理アセスメント、心理療法）を理解する。 ②臨床心理士の業務を理解する。
援助的人間関係論 ◎大野 夏代 樋之津 淳子 山本 勝則 藤井 瑞恵	演習 30時間	【科目のねらい】 看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について理解を深めるとともに、コミュニケーションの理論と技術を修得する。また、受容、共感について理解し、自己と他者との関係が成立し、信頼関係を確立することによって援助が可能となることを学ぶ。 【到達目標】 ①自己概念を構築し、対人関係形成における自己の傾向について述べるができる。 ②援助者として聴くこと・伝えることができる。 ③援助的人間関係を形成するために、意図的に関わるができる。
看護倫理学 ◎宮崎 みち子 ★リボウィッツ よし子	講義 15時間	【科目のねらい】 看護職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを理解する。さらに、看護ケアを行うという状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察する。 【到達目標】 ①価値の特質が理解できる。 ②看護実践上の倫理的概念が理解できる。 ③看護における倫理的意思決定モデルの特徴が理解できる。 ④事例を基に、倫理的分析と倫理的意思決定が考察できる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
小児看護学概論 松浦 和代	講義 15時間	<p>【科目のねらい】前半の講義では、乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、及び家族の発達に関する知識と基礎理論を学修します。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察します。以上の学修を通して、小児看護の役割、責務及び実践活動の意義について理解を深めます。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの人権、権利擁護、親権、子どもと親の意思決定のあり方について説明できる。 ②子どもの成長・発達、健康、家族と育児機能、生活環境について説明できる。 ③子どもの発達評価と環境アセスメントの方法を説明できる。
母性看護学概論 宮崎 みち子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】周産期のみならず、広くライフサイクル各期にある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健及び看護活動について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①母性看護の基盤となる概念が理解できる。 ②母性看護の現状と課題が理解できる。 ③母性看護の対象特性が理解できる。
成人看護学臨地実習Ⅰ ◎藤井 瑞恵 内田 雅子 須田 恭子 菅原 美樹 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 繭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子 工藤 京子 小坂 美智代 鶴木 恭子 原井 美佳 測本 雅昭	実習 135時間	<p>【科目のねらい】成人期にある対象を科学的視点でアセスメントし、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成人期にある対象をライフサイクルの側面から説明することができる。 ②成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に説明することができる。 ③成人期にある対象の健康障害、健康レベル、環境をアセスメントすることができる。 ④看護問題を解決するために援助方法を計画することができる。 ⑤成人期にある対象の状況に合わせて援助を実施し、評価することができる。 ⑥成人期にある対象と援助の人間関係を形成することができる。 ⑦看護学生としての役割・責任を果たすことができる。
老年看護援助論 ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 進藤 ゆかり ★川人 由美子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】老年期にある人の加齢的变化や特有の疾患、症状についてその背景、原因、病態、治療などを学び、高齢者及びその家族を対象とした基本的援助方法について学習する。</p> <p>老年期にある人の健康状態に対する診断・治療過程における看護方法を自立支援の視点から学修する。高齢者ケアをめぐる社会制度の種類と内容を理解し、政策的課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高齢者特有の疾病と治療について理解し、加齢に伴う諸機能の変化と関連させて説明できる。 ②高齢者の周手術期・急性期・回復期・慢性期に必要な援助方法について説明できる。 ③高齢者の健康増進プログラムについて転倒予防、認知症予防の看護について説明できる。 ④要介護者家族や高齢者を取り巻くケアシステムの種類と内容について説明できる。 ⑤老年看護の展開方法について理解し、事例に基づいた看護計画を立案できる。

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
精神看護援助論 ◎山本 勝則 守村 洋 ★安田 素次	演習 30時間	【科目のねらい】 精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。 【到達目標】 ①精神障害者の病態像及び生活への理解を深め、その治療法と基本的看護援助方法を習得する。 ②社会生活及びライフサイクル各期での精神保健について説明できる。
在宅看護学概論 中村 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】 健康障害を持ちながら在宅で生活している人々とその家族（対象者）の生活を困難にしている要因を迫及し、生活の質が向上するよう支援するため、在宅看護の概念・諸制度、及び在宅看護活動の目的、展開方法と技術について学ぶ。 【到達目標】 ①在宅看護の機能と役割について理解する。 ②在宅看護とその対象者の特徴を理解する。 ③在宅看護の実施機関である訪問看護の活動と看護の専門性について理解する。 ④在宅ケアチームを構成する諸機関及び専門職の役割と連携を理解する。
在宅看護援助論 ◎菊地 ひろみ 坂倉 恵美子 ★工藤 和子	演習 30時間	【科目のねらい】 健康障害をきたし、在宅看護の対象である在宅療養者及び要支援介護高齢者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学習する。 【到達目標】 ①在宅看護実践に必要な制度及び社会資源の活用方法について理解する。 ②訪問看護ステーションの運営及び訪問看護師の活動について理解する。 ③在宅療養者の家族に対する援助方法について理解する。 ④在宅看護の展開方法について理解し、事例にもとづき看護計画を立案できる。 ⑤在宅療養者のさまざまな状態と生活上の諸特徴、援助方法を理解する。
がん看護学 ◎樋之津 淳子 ★松山 茂子	演習 30時間	【科目のねらい】 がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛みの緩和等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。 【到達目標】 ①がんを取り巻く看護・医療の動向を説明できる。 ②がんの症状を持っている対象に必要な情報収集とアセスメントができる。 ③症状緩和に向けた看護介入の方法がわかり、根拠を明確にできる。
保健医療福祉制度論 ★館石 宗隆	演習 30時間	【科目のねらい】 保健・医療・福祉に関するさまざまな制度・施策の中から、特に重要と思われるものを取り上げ、その歴史的背景を踏まえながら最近の施策の動向と将来の課題について学ぶ。同時に、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。 【到達目標】 各回の講義ごとに取り上げる制度・施策の概要、目的、背景及び今日までの歩みなどについて正しく理解し、自分自身の意見を基に議論することができる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
保健統計 ◎★片倉 洋子 ★榎 洋一	演習 30時間	<p>【科目のねらい】医療・看護分野のほとんどの分野において他の分野に比べると個体変異の大きい数値データや質問紙調査にみられる定性的データを扱うことが多い。このようなデータの解析に対して、共通に適用できるような数学的基礎を学ぶとともに、看護分野に必要とされる統計解析上の基礎的知識を修得し、今後の看護師業務及び保健師業務や看護学研究に反映させる能力を養う。</p> <p>また、疫学領域においてはEBN（科学的根拠に基づく看護学）の概念を理解し、その実践能力を養う。特に疫学的分析前向き研究（コホート研究）、後向き研究（患者対照研究）、介入研究の代表的研究を理解する。その際にはデータを疫学的に処理するときに、バイアス・交絡などに常に注意し、疫学的思考態度を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①確率の初歩的な知識である確率変数、確率分布、期待値、分散などの概念を知る。 ②統計学の基本的概念である母集団、標本分布法則、中心極限定理、統計量などの基礎的事項を知る。 ③統計的手法の基礎となる推定、検定についてその考え方や応用の方法を理解する。 ④医学統計学の基礎を理解し、それを医学・看護領域のデータ解析にコンピュータを使って応用する。 ⑤疫学の定義と歴史を学習し、疫学で扱う指標、手法を学ぶとともに、その実践例を学習し応用できる。
小児看護援助論 ◎松浦 和代 富樫 武弘 吉川 由希子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】小児看護学概論を踏まえ、小児期に多い健康障害の病態、治療法及び看護援助の方法について基本的な知識を学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識と技術を修得する。 ②小児期に多い疾患について、特有な症状、疾病発生のメカニズム、検査方法及び治療法に関する基本的な知識を修得する。 ③主な疾患別に看護援助の要点を修得する。看護援助のあり方を、子どもと家族の発達支援の観点から考察する。
母性看護援助論 ◎宮崎 みち子 渡邊 由加利 ★内田 亜紀子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】女性のライフサイクル各期における生理的変化と、特徴的な疾病・治療、及び対象の生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について学修する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①女性に特有な生理的変化と疾病が理解できる。 ②思春期・成熟期・更年期・老年期女性に必要な看護が理解できる。 ③妊産褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特徴、及び必要な看護が理解できる。 ④妊産褥婦及び新生児を取り巻く家族に必要な看護が理解できる。
成人看護技術論 ◎須田 恭子 内田 雅子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 神島 滋子	講義 30時間	<p>【科目のねらい】成人看護援助論を踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病の疾患に対する基本的な看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつないでいく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康障害を有する対象と、その家族への基本的な援助技術が実施できる。 ②看護過程を展開しながら効果的に看護を提供するための基本的な看護技術が実施できる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
成人看護学臨地実習Ⅱ ◎菅原 美樹 内田 雅子 須田 恭子 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 小坂 美智代 測本 雅昭	実習 90時間	<p>【科目のねらい】成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。疾病・健康問題に応じた生活支援と保健医療チームについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成人期にある対象の特性と看護ケアの特殊性が理解できる。 ②健康障害が対象と家族に及ぼす影響について、多方面から統合的にアセスメントできる。 ③看護過程を展開する上で、健康問題を明らかにし、健康回復、適応促進、生活の再構築に必要な看護ケアの計画・実践・評価ができる。 ④対象の療養生活を支援する保健・医療・看護・福祉チームの役割と機能について説明できる。 ⑤看護専門職を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。
老年看護学臨地実習Ⅰ ◎坂倉 恵美子 村松 真澄 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 45時間	<p>【科目のねらい】自立した生活を営む健康な高齢者との触れ合いを通して、高齢者の暮らしや健康への配慮の仕方を体験的に学ぶ。また、加齢に伴う身体的、社会的、心理的变化とその家族が抱える健康問題と日常生活上の困難な課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①老年期というライフステージにある対象の発達課題を具体的に説明できる。 ②老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を具体的に説明できる。 ③健康高齢者の健康上のニーズ、及び健康法について知り、説明できる。 ④健康高齢者の生活において老人福祉センターの果たす役割について知り、説明できる。
精神看護技術論 ◎山本 勝則 守村 洋 河村 奈美子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】精神看護援助論を踏まえて、精神の健康上の問題に直面している対象と、その家族に対する援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある対象やその家族との関わり方や、看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①精神の健康上の問題に直面している対象者への効果的な看護技術を習得する。 ②精神の健康上の問題に直面している対象者への看護過程を考えることができる。
精神看護学臨地実習 ◎守村 洋 山本 勝則 河村 奈美子	実習 90時間	<p>【科目のねらい】精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①対象との関わりを通し、精神障害のある対象を理解する ②治療的コミュニケーションの技法及び精神科における看護援助を、実践を通して修得する。 ③精神障害を持つ対象の生活を理解し、支援システムを説明できる。 ④看護学生として責任ある行動や態度を修得する。
在宅看護技術論 ◎菊地 ひろみ 保田 玲子 照井 レナ	演習 30時間	<p>【科目のねらい】在宅看護援助論を踏まえ、在宅看護、訪問看護に関する援助技術、知識、対応方法について、看護過程を展開しながら学ぶ。また、在宅療養者やその家族に対する看護に必要な基本技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践につなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅療養者の特性を踏まえた生活支援と医療管理技術について説明できる。 ②事例のアセスメントに基づき、必要な援助技術を明らかにできる。 ③基本的な訪問看護技術の根拠と実施方法を説明できる。 ④基本的な訪問看護技術について習得する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
在宅看護学臨地実習 ◎菊地 ひろみ スーディ神崎 和代 照井 レナ	実習 90時間	<p>【科目のねらい】在宅で療養している人とその家族に対して提供する看護の役割・機能を理解するとともに、在宅療養者や障害者及びその家族の生活と健康を理解する。また、保健・医療・福祉の連携と、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅療養者、要支援介護高齢者及びその家族（以下対象者）とコミュニケーションを図ることができる。 ②対象者と家族の生活を全体的（holism）に理解し、生活機能の維持・向上の観点から支援を考えることができる。 ③在宅における生活援助技術を一部経験し、在宅における看護技術の特徴を理解する。 ④地域包括支援・居宅介護支援と専門職の役割、及び各専門職の連携について、同行訪問、各種予防事業参加などを通して理解する。 ⑤看護学生として責任ある行動と態度を実践できる。
リハビリテーション看護学 ◎★奥宮 暁子 ★石鍋 圭子 ★佐久間 隆	演習 30時間	<p>【科目のねらい】ライフステージにおける看護の対象やその家族の特徴と、生活行動を困難にしている障害の特徴を学習し、リハビリテーションの観点から看護の役割を理解する。また、疾患や障害に応じたリハビリテーションへの看護援助について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リハビリテーションにおける看護の役割を説明できる。 ②生活行動を困難にしている疾病や障害の特徴を理解する。 ③障害を持つ人とその家族における生活の再構築のための看護支援を計画することができる。 ④自立に向けた安全・安楽な看護援助技術を習得する。
認知症ケア スーディ神崎 和代	演習 30時間	<p>【科目のねらい】老年期における認知症の発現過程と、認知障害のある高齢者の援助方法について学ぶ。</p> <p>また、認知症を持つ高齢者の日常生活・社会生活への適応を支援する看護方法や、介護家族を支援する方法、疾患進行遅延対策について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①認知症及びアルツハイマー病の定義をし、それぞれの臨床的特徴を述べることができる。 ②脳内の臨床的变化を理解するとともに、重症度によるアルツハイマー病の分類と各レベルの特徴を述べることができる。 ③米国の最新レベルの認知症ケア、医療、看護のあり方を説明することができる。 ④認知症をコミュニケーション、栄養、環境の観点から理解し、支援方法を述べることができる。 ⑤認知症をケアする現場においてケア実態を冷静に観察し、それらを文章、または口頭で表現できる。 ⑥認知症を持つ高齢者の家族やケア提供者の直面している課題を述べることができる。
地域看護学概論 ◎加藤 登紀子 清水 光子 ★金川 克子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】地域看護活動の概念と機能について理解し、人々が地域の生活の中で直面する健康問題を、個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスに関わる看護活動及び地域保健について基本的な考え方と方法を学習する。また、地域看護の対象及び活動、役割などについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域看護活動の歴史・概念や、地域における保健・看護活動の重要性を述べるができる。 ②地域看護活動の諸分野に特有なコミュニティケアと保健師の役割が説明できる。 ③地域（コミュニティ）の健康レベルと、社会情勢、生活環境との関連を述べるができる。

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
健康教育指導法 ◎加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 保田 玲子 松村 寛子	演習 30時間	【科目のねらい】健康教育の基本となる理念と、教育活動に必要な方法（企画、方法及び評価）を理解する。また、健康についての知識の習得や態度を形成し、保健行動の獲得や変容のために重要な保健看護活動の実践に生かす。 【到達目標】 ①健康教育の理念・理論・意義・目的を説明することができる。 ②対象（個人・集団）に適した健康教育の方法（企画・実施・評価）のポイントを立案できる。 ③保健行動の獲得・変容・継続のための健康教育・生活支援の基本を実施できる。
研究方法論 ◎松浦 和代 定廣 和香子 樋之津 淳子	演習 30時間	【科目のねらい】看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップを学修します。また、文献検索の実際を体験的に学修し、先行研究の活用方法を修得します。学修過程を通して、卒業研究に必要とされる基礎的な能力、態度、及び倫理観を養うことを目指します。 【到達目標】 ①看護学と看護臨床における研究の意義、研究の概念、研究の方法論と基本的なステップについて説明できる。 ②関心のある看護研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③関心のある看護研究課題について研究計画書の作成を試み、理論的文脈を推敲する。
小児看護技術論 ◎吉川 由希子 松浦 和代	演習 30時間	【科目のねらい】健康障害を持つ子どもと、その家族に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、看護実践能力の向上を目指す。また、子どもとその家族を対象とした援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。 【到達目標】 ①子どもと家族の健康生活への支援について習得し、対象に合わせた援助方法がわかる。 ②小児看護に特有な看護技術について習得し、状況に応じた援助方法がわかる。 ③事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開ができる。
小児看護学臨地実習 ◎吉川 由希子 松浦 和代	実習 90時間	【科目のねらい】小児看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。 ①対象との関わりを通して、子どもの成長・発達・保育について理解を深める。 ②健康障害を持つ子どもと家族への生活支援について学ぶ。 【到達目標】 ①臨地実習を通して、子どもの健康生活、育児支援、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの基礎知識を踏まえた看護実践能力を行動化できる。 ②①について、その効果を評価できる。 ③臨地実習を通して、疾患や障がいを持つ子どもと家族の看護、生活習慣の自立支援、健康教育や家族支援の基礎知識を踏まえた看護実践能力を行動化できる。 ④③について、その効果を評価できる。 ⑤臨地実習を通して、対象者やチームメンバーとの効果的なコミュニケーション能力についてわかる。
母性看護技術論 ◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 多賀 昌江	演習 30時間	【科目のねらい】母性看護援助論を踏まえて、母性看護に必要な観察・援助技術を学ぶ。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児各々の特性を踏まえ、効果的に看護を展開するための方法（看護過程）を学生自らが主体的に学修し、実践へつなげていく。 【到達目標】 ①紙上事例を用いて、妊婦・産婦・褥婦及び新生児に必要な看護過程を学修し、記述できる。 ②母性看護に必要な基本的技術の原理と根拠を明確にし、実施することができる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
母性看護学臨地実習 ◎渡邊 由加利 宮崎 みち子 多賀 昌江	実習 90時間	【科目のねらい】母性看護の対象特性と看護ケアの特殊性を理解し、看護に必要な基本的知識、技術、態度を養う。 【到達目標】 ①妊産褥婦、新生児及び家族の特性を説明できる。 ②妊産褥婦、新生児及び家族に必要な看護過程を展開し、記述できる。 ③妊産褥婦及び新生児の安全と人権を配慮した看護の実践ができる。 ④母性看護に必要とされる看護者の役割が説明できる。 ⑤生命（いのち）の誕生を通して、人間の生命尊重について考察できる。 ⑥看護学生としての役割・責任を果たすことができる。
老年看護技術論 ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり	演習 30時間	【科目のねらい】老年看護援助論を踏まえて、高齢者を総合的に評価する方法を学び、高齢者及びその家族を対象とした援助技術について学ぶ。また、高齢者に特有の症状や疾病の看護に必要な基本的看護技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生自らが主体的に習得し、実践へつなげていく。 【到達目標】 ①高齢者を客観的にとらえ、共通理解するための総合機能評価を説明できる。 ②高齢者のコミュニケーションの基本的方法を理解し、コミュニケーション障害を持った対象への対応の仕方が説明できる。 ③高齢者の生活障害を有する対象と、家族への基本的な援助技術の根拠がわかり、排泄、口腔保健、食支援について援助できる。 ④高齢者の急変に対応できる技術を理解し、その対応を説明できる。 ⑤サクセスフルエイジングのためのいきがい支援が説明でき、高齢者と家族が望むエンドオブライフへの支援が考察できる。
老年看護学臨地実習Ⅱ ◎村松 真澄 坂倉 恵美子 進藤 ゆかり 原井 美佳	実習 90時間	【科目のねらい】老年期にある対象を加齢や疾病と、それに影響される生活機能障害をも含め、総合的に理解し、対象個々のQOL向上に向けた援助ができる基礎的能力を養う。 【到達目標】 ①老年期にある対象を身体的、精神的、社会的、発達の側面から統合的に説明ができる。 ②老年期にある対象の健康課題をアセスメントし、問題を抽出し看護計画が立案できる。 ③老年期にある対象の状態にあった援助方法を実施し、評価することができる。 ④老年期にある対象の人生と人格を尊重した態度を表出できる。 ⑤保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を表出できる。
透析ケア ◎内田 雅子 ★城下 弘一 ★佐々木 美乃	講義 15時間	【科目のねらい】末期腎不全の病態と透析療法による合併症を理解し、必要な治療とそれに伴う自己管理について学ぶ。そして、慢性透析者がその人らしい生活を送られるように支援するための、患者教育と心理社会的援助方法に関する知識・技術を修得する。さらに、これらが慢性透析者とその家族の生活・人生にどのような影響を与えるのかを病みの軌跡の視点から理解する。 【到達目標】 ①末期腎不全の病態、透析療法の原理、働きについて理解する。 ②自己管理の教育と支援に必要な知識と技術を学ぶ。 ③透析療法と自己管理が透析者とその家族の生活・人生に与える影響について理解する。
重症集中ケア ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★小山 昭人	講義 15時間	【科目のねらい】重症集中ケアを必要とする患者の身体的、心理的、社会的側面を理解し、患者とその家族に適切な看護援助をするために、集中治療看護の概念、沿革、集中治療を受ける患者にみられる特徴的な病態とその治療・ケアの方法について学ぶ。 【到達目標】 ①集中治療と看護の歴史的変遷、特徴、役割を理解する。 ②重症集中ケアが必要な患者の身体的・心理的・社会的特徴及び家族の特徴を理解する。 ③集中治療を必要とする患者の病態と患者・家族への看護援助方法を理解する。 ④集中治療領域における倫理的課題について考察する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
救急看護学 ◎菅原 美樹 中村 恵子 ★三上 剛人	講義 15時間	【科目のねらい】 救急患者に適切な看護を提供するために、救急患者の特徴と病態を理解し、それらをもたらず疾患と各症状、必要な処置・治療に関する知識を習得する。 【到達目標】 ①救急医療・救急看護の特徴と役割、現状について理解する。 ②救急患者にみる多彩な病態と治療及び看護について理解する。 ③生命危機状況にある患者・家族の心理状態と心のケアの必要性を理解する。 ④脳死と臓器提供について理解し、救急医療・看護の課題を考察する。
放射線医療管理論 ◎★池田 光 ★宮崎 知保子	講義 15時間	【科目のねらい】 医療を含め、さまざまな領域で利用されている放射線の物理学的性質、生物学的作用に関する基礎的知識を理解する。また、医療の分野を中心とした放射線利用、防護・障害防止の考え方について学ぶ。 【到達目標】 放射線の基礎を学習し、無用な不安を払拭するとともに、適切な防御を学習する。現在の医療は、診断、治療とともに、放射線機器なしでは成立しない。一般撮影、CT検査、RI検査など診断について、また放射線治療の基礎知識をあわせて習得する。
ペリネイタルケア ◎吉川 由希子 渡邊 由加利	講義 15時間	【科目のねらい】 周産期にある母体、胎児、新生児を中心に、低出生体重児や早産児などの特徴や援助技術について学習する。また、母親を中心とした家族への支援や育児指導、保健センターにおけるさまざまな相談窓口などの社会資源の活用についても学ぶ。 【到達目標】 ①胎児期の成長発達と母体の健康管理について理解できる。 ②周産期にみられる母体の異常や胎児・新生児の異常と医療のあり方について理解できる。 ③低出生体重児や早産児の特徴と正常な成長発達を促すために必要な援助について理解できる。 ④母親を中心とした家族への支援のあり方と育児指導、及び社会資源について理解できる。
パリアティブケア ★石垣 靖子	講義 15時間	【科目のねらい】 治癒が困難な状態にある対象とその家族の心理的特徴を理解し、QOLを最良のものにするために必要な知識や技術を学ぶ。また、終末期の全人的なケアにおける理念、倫理的諸問題を理解し、ケアを提供する上で必要な技術の原理を理解し、その基本的な方法を習得する。 【到達目標】 ①パリアティブケアとはどのような医療・ケアなのかを説明できる。 ②パリアティブケアを受ける対象とその家族が直面するトータルペイン（全人的苦痛）について説明できる。 ③パリアティブケアの最終目標である、患者・家族のクオリティ・オブ・ライフを維持・向上するための看護師の役割について考えることができる。
寒冷地医療 ★前沢 政次	講義 15時間	【科目のねらい】 積雪寒冷地の環境や生活について理解するとともに、寒冷地であることによる保健・医療・福祉分野における特徴や課題などについて学ぶ。また、寒冷地において人々が安全で安心して生活するための健康増進や看護・介護などの援助方法についても学ぶ。 【到達目標】 寒冷地特有の問題を住民生活の場から感知し、保健・医療・福祉・教育の場で活用できる知識・技術・態度を身につける。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
地域看護援助論 ◎清水 光子 加藤 登紀子 新納 美美 保田 玲子 櫻井 繭子 松村 寛子	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 地域看護活動に特徴的な援助方法の基盤となる基本的な理論、知識及び技法について学ぶ。特に、個人・家族のセルフケア能力を高める援助方法、特定の集団に特徴的な問題を解決するための援助方法について理解を深める。また、地域における看護職の機能と役割を理解し、地域ニーズに対応した保健活動の展開と実践方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域看護の対象となる人々の特性を理解し、セルフケア能力を高めるための効果的な援助方法（健康相談、健康診査、家庭訪問、地域組織活動）を説明または実践することができる。 ② 地域看護活動（行政、産業、学校）の目的、目標、役割、機能を説明することができる。 ③ 個人・集団への看護活動や地区情報から特定集団や地域の健康課題を明確にし、ニーズに対応した保健活動の展開を考察することができる。
看護教育学 定廣 和香子	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 看護教育の基本となる教育の目的と概念、日本における看護教育制度、看護教育におけるカリキュラムのプロセス、教授・学習、評価といった看護教育の展開の過程について理解し、教育の現状と今後の課題について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護教育学の構造・基本概念を理解する。 ② 看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。 ③ 看護教育カリキュラム編成・授業計画の立案・教育評価の基本を理解する。
学部連携演習 ◎スーディ神崎 和代 樋之津 淳子 清水 光子 須田 恭子 吉川 由希子 星 美和子 渡邊 由加利 河村 奈美子 櫻井 繭子 進藤 ゆかり 三上 智子 ◎酒井 正幸 エル サニ マロアン 武田 亘明 張 浦華 フィッシャー ニーナ 細谷 多聞 斉藤 雅也 那須 聖 福田 大年 山田 良 三谷 篤史	演習 60時間	<p>【科目のねらい】 看護学部及びデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に、両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護及びデザインの自己の専門性について理解を深める。 ② 異分野である相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 ③ 学際的視点からの課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
地域看護技術論 ◎保田 玲子 加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 櫻井 繭子 松村 寛子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 地域看護援助論をふまえ、地域看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、特定集団、地域集団を対象に特徴的な健康課題をもつ事例について看護過程を展開しながら学ぶ。また、地域看護活動を実践していくために必要な基本的知識・技術を理解し、効果的な看護を展開するための技術を学生が自ら主体的に習得し、実践へつなげていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①演習を通して生活の場における健康課題を理解し、対象者の主体性や予防的な対処能力を育むための支援計画を立案できる。 ②地域看護実践で用いられる基本的な技術を修得し、地域を看護する上でそれらを用いる意義を説明することができる。
ヘルスプロモーション活動論 ◎加藤 登紀子 清水 光子 新納 美美 保田 玲子 櫻井 繭子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 ヘルスプロモーション（人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス）の理論を理解する。また、ヘルスプロモーションの活動事例である住民一人ひとりの健康づくり活動を支援する活動や施策について学ぶほか、これらの活動や施策において看護職が果たすべき役割や機能について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ヘルスプロモーションの理論・目的・関連施策を健康観の変遷とともに述べることができる。 ②保健師による地域や組織へのヘルスプロモーション支援技術を説明することができる。 ③実習地域のヘルスプロモーション活動の概要を述べるができる。
地域看護学臨地実習 ◎新納 美美 加藤 登紀子 清水 光子 保田 玲子 櫻井 繭子 松村 寛子	実習 135時間	<p>【科目のねらい】 地域住民の生活に直接触れ、多様な健康レベルの個人・家族、特定集団・地域を対象とした保健師活動に積極的に参画し、地域看護の基礎的知識・技術の活用方法について理解する。また、地域全体の健康レベルの把握・分析・評価の実際を学び、地域の健康課題の解決に向けた保健計画の策定や社会資源の開発など、組織的な取り組みを可能にするための保健師の活動を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域看護の基礎知識と技術を活用し、対象（個人・家族）が健康的な生活を自律して送れるよう支援する方法を理解する。 ②地域全体の健康レベルを把握・分析し、地域の健康課題の解決・改善のための地域診断の意義や集団への具体的な支援方法について理解する。 ③健康を守る国・地方自治体の施策を保健サービスとして直接地域住民に働きかけ、同時に住民のニーズをくみとり施策化に提言していく重要な役割を保健師が担っていることを理解する。 ④多様な組織に所属する看護職（保健師・看護師）の活動の違いと共通の専門性について理解する。 ⑤学生として地域社会や組織の秩序を理解し、その中で自らに課せられた責任を果たしながら主体的・積極的に行動する。
看護管理学 河野 総子	演習 30時間	<p>【科目のねらい】 病院などにおける看護組織について理解し、看護組織を運営していくために必要な組織論・リーダーシップ論・管理理論・リスクマネジメントの基礎的な理解などについて学び、より良い看護を提供するための管理方法と今日的課題について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護管理の目的を理解し、チーム連携のリーダーとしての役割を担う基礎的概念を学ぶ。 ②看護活動そのものが専門職者としての自己成長に深く関わるものであること、および組織内キャリア発達の重要性を理解し、主体的に活動を展開する基礎を構築する。 ③専門職としてのキャリア開発と集合教育やOJTの意義と実際を学び、専門職業人の現任教育の必要性について理解する。 ④施設受療から在宅までの継続的看護のあり方について検討し、今後の看護連携が展望できる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
看護情報学 ★佐藤 ひとみ	講義 7時間	<p>【科目のねらい】 データと情報の違いを理解し、どのようなデータを情報として看護に活用するかを理解できる。看護の分野で情報科学をどのように活用しているか、その上で守らなければならない倫理や法的根拠を知り、今後の活用について考えることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①どのようにデータを情報として活用するかを理解する。 ②看護分野での情報科学技術の活用について理解する。 ③情報を活用する上で守らなければならない倫理、法的根拠を理解する。
災害看護学 ◎太田 晴美 ★浅井 康文	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 災害時において看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携について、災害が健康へ及ぼす影響とともに学ぶ。具体的には、災害直後・初期に発生する人々のニーズと健康問題の理解、被災者にもたらす中・長期的な身体的・心理的・社会的な影響と看護の役割について考察する。また、緊急救援活動についても考える。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①災害看護の基礎的知識を理解する。 ②災害時の医療・看護活動の実際を知り、今日的課題を考察する。 ③災害が人々の生活に及ぼす影響を理解する。 ④災害時の看護者役割を述べることができる。
国際看護学 ◎スーディ神崎 和代 大野 夏代	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 諸外国の社会、経済、教育、文化的な相違の理解の基に諸外国の看護の仕組みや実際を学ぶ。また、日本の国際的看護活動の歴史と現状を知る。国際的見地から看護を学習することで地球上の人々の健康課題に対する看護貢献の在り方を考え、異文化に於ける看護・医療サービス提供者としての姿勢を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①国際看護における基本的な概念を説明できる。 ②国（文化・国策）によって異なる看護システム・特徴の説明ができる。 ③世界の人々の健康問題を、地域（国）格差に焦点を当てて説明できる。 ④看護分野における国際協力活動の課題を考察することができる。
国際保健学 ★玉城 英彦	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 主にWHOの活動を通じて国際保健活動について触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康について学ぶ。 ②WHOの組織と活動を理解する。 ③わが国のODAについて学ぶ。
医療経営学 スーディ神崎 和代	講義 15時間	<p>【科目のねらい】 経済活動の構造と動態を踏まえて、国民経済に占める医療経済の位置づけ、医療資源の配分、医療費の配分について学習する。少子・高齢社会の日本現状の視点から医療経済を考察し、介護保険、医療保険を含む看護・医療・福祉サービスの質と経済効果のバランスなど医療経済の側面を理解する。医療経営の戦略、医療組織の在り方、顧客満足度評価の基礎を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日本の医療経済の国民経済に占める割合、医療資源の配分の仕組みを理解する。 ②少子化と高齢者人口増加の国民経済への影響を理解する。 ③社会保障制度と市場原理、ケアサービスの質と経済効果のバランスの在り方を理解する。 ④医療経営の組織の仕組み、医療経営の戦略、顧客満足度の評価の基礎を理解する。

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
医療安全管理論 ◎河野 総子 ★阿部 順子	講義 15時間	【科目のねらい】医療看護の安全システムにおけるリスクマネジメントの実際的な運用事例について学習する。さらに、医療における安全管理と医療の質の関連性、評価方法等についても理解する。 【到達目標】 ①医療安全保障のための社会システム・院内システム（病院組織）におけるリスクマネジメントの考え方とその取り組みを学び、医療安全管理の重要性を理解する。 ②ケア実施に伴い発生しやすい事故事例について学び、医療の質について考える。 ③医療安全管理と医療の質との関連について学び、その評価方法について理解する。
現代専門職論 ◎須田 恭子 中村 恵子	講義 15時間	【科目のねらい】現在、保健・医療・福祉のさまざまな分野で活動している方々の職業観、専門職観あるいは人生観等を通して、これからの看護専門職のありようを考える。 【到達目標】 ①それぞれの専門分野の特殊性を理解し、各分野におけるこれからの方向性がわかる。 ②それぞれの活動内容との出会いと専門職者としての個々の人生の中から、職業観の拡充を図ることができる。
学部連携演習 ◎河野 総子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 大野 夏代 守村 洋 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 保田 玲子 ◎齋藤 利明 吉田 恵介 矢部 和夫 羽深 久夫 中原 宏 斉藤 雅也 那須 聖 山田 良 酒井 正幸 杉 哲夫 石崎 友紀 張 浦華 三谷 篤史 城間 祥之 細谷 多聞 望月 澄人 大淵 一博 武邑 光裕 吉田 和夫 上遠野 敏 フィッシャー ニーナ エル サニ マロアン	演習 60時間	【科目のねらい】看護学部及びデザイン学部学生を対象に、基本的な専門教育の理解の上に、両学部相互の専門性に触れさせ、学生自身の専門性を広げるとともに、異分野の人材と連携する能力を養うことを目的に、両学部合同による演習を行う。両学部の学生を少人数グループに編成し、看護、デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、相互の学生が共同・協力して課題解決に取り組む。 【到達目標】 ①看護及びデザインの専門性について理解を深める。 ②相互の専門性を尊重し合い、協同して課題に取り組む姿勢を身につける。 ③課題の発見・解決プロセス（課題解決プロセス）を習得する。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	科目のねらい・到達目標
ヘルスケア マネジメント実習 ◎河野 總子 内田 雅子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎 和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 須田 恭子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 渡邊 由加利 太田 晴美	実習 135時間	<p>【科目のねらい】 病院または在宅等における組織的な看護ケアを提供するためのシステムの構築、運営とマネジメント機能について、実践的組織活動を通してヘルスケアマネジメントを学ぶ。具体的には、学生自身が関心のある領域について、これまでの授業で学んできた知識・技術を、実践を通して確認することにより、理論と実践を結び付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①チームの一員として役割を担うことができる。 ②ケア実現のためのマネジメント能力を養うことができる。 ③危機発生時の対処方法を理解し、リスクマネジメントができる。 ④看護師の倫理綱領を遵守し、保健医療専門職として責任ある行動をとることができる。 ⑤既習の知識と技術の統合・活用を通して自己の課題を見出すことができる。

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料

I 概要
II 教育活動
III 研究活動
IV 社会活動
V キャリア支援活動
VI 入学者選抜結果
VII 附属図書館
VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会
IX 学内運営の概要
X 資料

授業科目・担当教員	授業形態・時数	科目のねらい・到達目標
卒業研究 ◎松浦 和代 内田 雅子 加藤 登紀子 河野 總子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎 和代 樋之津 淳子 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 清水 光子 須田 恭子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 佐藤 公美子 菅原 美樹 新納 美美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 保田 玲子 渡邊 由加利 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 櫻井 繭子 進藤 ゆかり 多賀 昌江 照井 レナ 松村 寛子 三上 智子	演習 120時間	<p>【科目のねらい】4年間の集大成として、学生自身が関心のある看護の領域や臨床事例を選択し、自らの問題意識をもって研究課題を追求し、研究の基本的な過程をたどりながら論文にまとめます。この過程を通して、学生が、看護に係る現象や援助の方法、看護職としての役割、について認識を深めることをねらいとします。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護領域に研究課題を見出すことができる。 ②研究の基本的なステップに基づいて、研究計画書を立案することができる。 ③研究計画書に基づいて、研究活動を遂行できる。 ④研究成果を、抄録にまとめ、発表することができる。 ⑤研究活動を通して、自己の看護観や専門職者としての役割を洞察できる。

4) 実習概要

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成21年6月8日～12日	市立札幌病院	84人
		市立札幌病院静療院	10人
		札幌市はるにれ学園	6人
		札幌市かしわ学園	6人
		札幌市みかほ整肢園	6人
		札幌市ひまわり整肢園	6人
		札幌市第二かしわ学園	9人
		札幌市あかしあ学園	9人
		札幌市中央老人福祉センター	16人
		札幌市東老人福祉センター	16人
		札幌市厚別老人福祉センター	13人
		札幌市豊平老人福祉センター	13人
		札幌市南老人福祉センター	13人
		札幌市西老人福祉センター	13人
		札幌市中央区介護予防センター大通公園	3人
		札幌市東区介護予防センター北栄	9人
		札幌市豊平区介護予防センター美園	3人
		札幌市南区介護予防センターまこまない	18人
		札幌市手稲区介護予防センター中央・鉄北	3人
		札幌北訪問看護ステーション	4人
札幌東訪問看護ステーション	4人		
札幌白石訪問看護ステーション	4人		
札幌清田訪問看護ステーション	4人		
札幌西訪問看護ステーション	4人		
札幌厚別訪問看護ステーション	4人		
札幌あゆみの園	32人		
札幌市中央健康づくりセンター	24人		
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成21年10月19日～23日	市立札幌病院	216人
		手稲溪仁会病院	116人
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成21年5月25日～6月5日	市立札幌病院	486人
		手稲溪仁会病院	252人
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成21年11月2日～20日	市立札幌病院	676人
		手稲溪仁会病院	247人
		KKR札幌医療センター	130人

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
老年看護学臨地実習 I	平成21年5月11日～15日	札幌市中央老人福祉センター	24人
		札幌市東老人福祉センター	27人
		札幌市厚別老人福祉センター	24人
		札幌市豊平老人福祉センター	27人
		札幌市南老人福祉センター	15人
		札幌市西老人福祉センター	27人
		札幌市白石老人福祉センター	27人
		札幌市清田老人福祉センター	12人
		札幌市北老人福祉センター	27人
		札幌市手稲老人福祉センター	27人
成人看護学臨地実習 II	平成21年6月22日～7月31日	市立札幌病院	764人
精神看護学臨地実習	平成21年6月22日～7月31日	市立札幌病院静療院	260人
		札幌花園病院	176人
		中江病院	257人
在宅看護学臨地実習	平成21年6月22日～7月31日	札幌市北区第2地域包括支援センター	24人
		札幌市東区第1地域包括支援センター	20人
		札幌市豊平区第1地域包括支援センター	20人
		東相談センター	12人
		白石相談センター	12人
		豊平相談センター	12人
		総合支援センターえがお	24人
		中央相談センター	8人
		北相談センター	12人
		南相談センター	8人
		西相談センター	8人
		手稲相談センター	8人
		札幌手稲訪問看護ステーション	24人
		札幌厚別訪問看護ステーション	8人
		札幌西訪問看護ステーション	24人
		札幌東訪問看護ステーション	22人
		札幌北訪問看護ステーション	22人
		札幌白石訪問看護ステーション	22人
		訪問看護ステーションあいしん	16人
		来夢ライン訪問看護ステーション	16人
来夢ライン療養通所介護事業所	8人		
はまなす訪問看護ステーション	14人		
札幌市白石区第1地域包括支援センター	8人		
居宅介護支援事業所 西円山敬樹園	16人		
札幌市北区第1地域包括支援センター	6人		
札幌市中央区第1地域包括支援センター	8人		

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
在宅看護学臨地実習	平成21年6月22日～7月31日	札幌市西区第2地域包括支援センター	17人
		札幌市白石区第2地域包括支援センター	22人
		指定居宅介護支援事業所 東札幌	22人
		指定居宅介護支援事業所 デイ・グリューネン	22人
		KKR札幌医療センター訪問看護室	16人
		札幌徳州会病院在宅医療室	34人
		札幌市南区第1地域包括支援センター	6人
		札幌市東区第2地域包括支援センター	8人
		訪問看護ステーションみなみ	8人
		訪問看護ステーションまこまない	8人
		訪問看護ステーションちゅうおう	8人
		訪問看護ステーションとよひら	8人
		東苗穂訪問看護ステーション	22人
		禎心会東訪問看護ステーション	22人
母性看護学臨地実習	平成21年11月24日～12月25日 平成22年1月18日～2月5日	市立札幌病院	311人
		札幌医科大学附属病院	102人
		天使病院	136人
		北海道社会保険病院	120人
小児看護学臨地実習	平成21年11月24日～12月18日 平成22年1月18日～29日	市立札幌病院	169人
		札幌医科大学附属病院	60人
		KKR札幌医療センター	157人
		天使病院	71人
		札幌市みかほ保育園	9人
		札幌市山の手保育園	18人
		札幌市若草保育園	9人
		札幌市新川保育園	9人
		札幌市青葉保育園	6人
		札幌市豊園保育園	15人
		札幌市美園保育園	6人
		札幌市新琴似保育園	9人
		札幌市山の手乳児保育園	16人
		札幌市澄川乳児保育園	10人
		札幌市北乳児保育園	6人
		札幌市菊水乳児保育園	10人
		札幌市東札幌乳児保育園	16人
		札幌市豊園乳児保育園	10人
		東区保育・子育て支援センター	12人
		西区保育・子育て支援センター	6人
手稲区保育・子育て支援センター	33人		
豊平区保育・子育て支援センター	12人		
清田区保育・子育て支援センター	12人		

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成21年11月24日～12月18日 平成22年1月18日～29日	西円山病院	273人
		慈啓会病院	105人
		介護老人保健施設 グラーネ北の沢	168人
地域看護学臨地実習	平成21年6月15日～7月24日	中央保健センター・中央区役所	100人
		北保健センター・北区役所	120人
		東保健センター・東区役所	120人
		白石保健センター・白石区役所	110人
		豊平保健センター・豊平区役所	110人
		西保健センター・西区役所	110人
		厚別保健センター・厚別区役所	50人
		手稲保健センター・手稲区役所	50人
		清田保健センター・清田区役所	50人
		南保健センター・南区役所	50人
		札幌市総務局職員部・札幌市職員共済組合健康管理センター	11人
		北海道労働保健管理協会	11人
		北洋銀行本店医務室	9人
		ダイエー健康保険組合健康管理センター	6人
		札幌鉄道病院	4人
		札幌がん検診センター	14人
		日本通運株式会社札幌支店	10人
花王株式会社北海道地区健康相談室	10人		
北海道農業団体健康保険組合	9人		
北海道警察本部	3人		
ヘルスケアマネジメント実習	平成21年9月28日～10月16日	市立札幌病院	324人
		市立札幌病院静療院	72人
		旭山病院	24人
		天使病院	48人
		KKR札幌医療センター	168人
		手稲溪仁会病院	132人
		札幌厚生病院	96人
		札幌鉄道病院	72人
		介護老人保健施設 プラットホーム	72人
厚別老人保健施設 デイ・グリューネン	36人		

5) 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）

教育GP「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」平成21年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成21年6月5日	全学FD研修会「組織的な教育改善活動を活発化するために（講師：山口大学 大学教育センター教授 小川勤）」を実施。（参加者：47名）
平成21年5月～7月	札幌市立大学で育成した模擬患者38名に対し、5回のフォローアップ研修を実施。
平成21年9月3日	模擬患者のために特別講演会（講師：岡山SP研究会 代表 前田純子）を実施。（参加者：45名）
平成21年11月14日 ～15日	医学教育セミナーとワークショップを岐阜大学と共催で実施。（学外参加者10名）
平成21年12月1日 ～11月25日	客観的評価のため、学生にOSCEオリエンテーションを実施し、各学年の到達目標について説明。（1年生：12月1日（火）、2年生：11月25日（水）、3年生・4年生：11月20日（金））
平成21年12月10日	FD研修会「OSCE評価と有効な教育的フィードバック。（講師：東京大学医学部附属病院総合研修センター長 北村聖）」を実施。（参加者：23名）
平成21年12月17日	OSCEの実施にあたって、模擬患者への説明及び教員との意見交換会を開催。（参加者：30名）
平成22年1月7日～8日	教育GP合同フォーラムに参加。（5名）
平成22年2月10日	FD研修会「模擬患者に対する教員の教育的役割について（講師：本学講師 渡邊由加利）」を実施。（参加者：29名）
平成22年2月15日	本学の実習先から担当者を招いて臨地実習指導者会議を開催。（参加者：197名）
平成22年2月19日 ～2月26日	各学生にOSCEを実施し、個別フィードバックを実施。（1年生：2月19日（金）、2年生：2月22日（月）、3年生：2月26日（金）、4年生：2月23日（火）） OSCEの実施に際し、岐阜大学医学部教育開発研究センター教授 鈴木康之氏を招聘
平成22年3月26日	本年度の教育GPの取り組みについて成果発表を行うとともに、意見交換会を開催。（参加者：106名）

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料